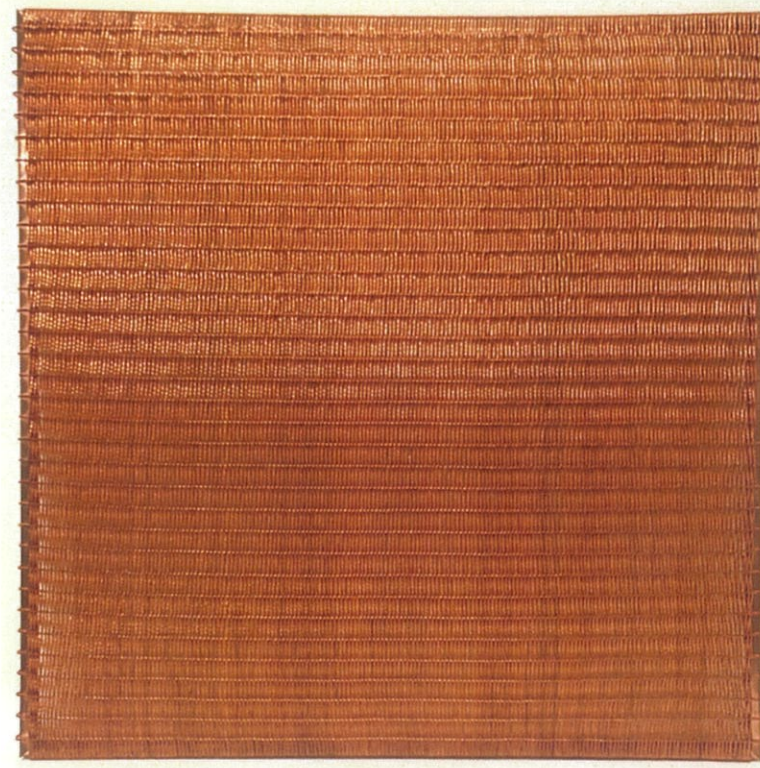
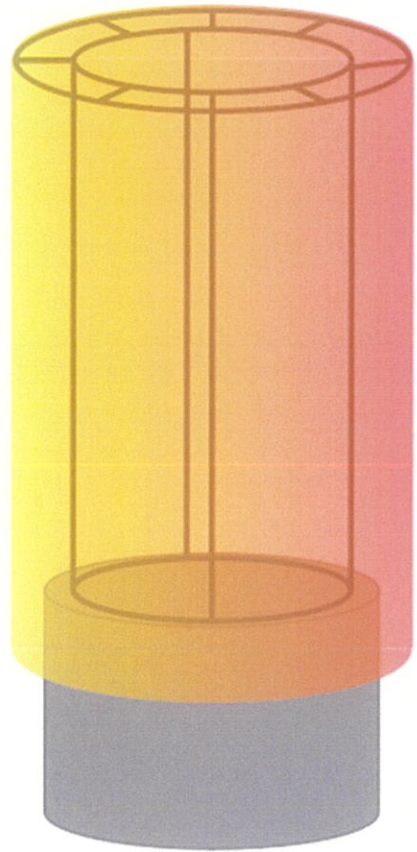
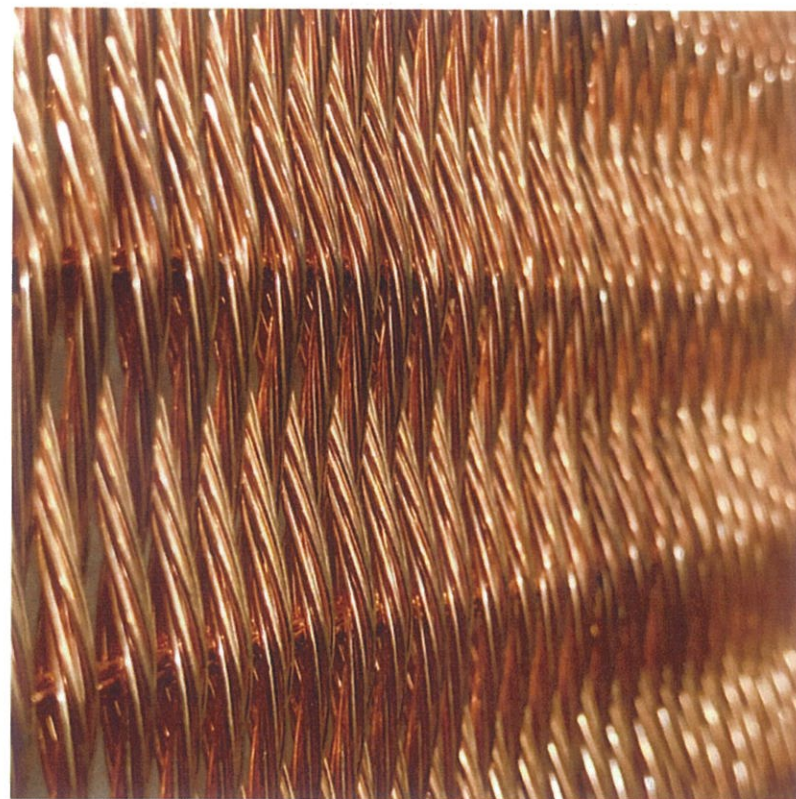


作品 および 設置イメージ・説明・制作方法 ※台座のサイズも分かるように記入ください



台座の上にフレームを乗せ作品を設置する。
銅線を編み込んで円柱型に固定する。
作品は右の2枚の図のような質感になる。



| | | | | | | | | | |
|-------|------|-----|---|-------|-------|---|----|-----|----------|
| 作品名 | 都市の幹 | | | 作品NO. | 66 | | | | |
| 素材 | 銅 | | | 想定重量 | 60 kg | | | | |
| 作品サイズ | 横幅 | 800 | × | 高さ | 1800 | × | 奥行 | 800 | (単位: mm) |

作品コンセプト

もの派の地平から中空的弁証法を以てポストインターネットに接続する。
図1/慣用句[畳の上で死ぬ]間際に新しい畳を用意したとして最後に選ぶ安息の場所とはなり得ない。[畳]は形ではなく関係経験時間、見えないその他によって確立される。視覚で捉える形よりもそれが纏う形ないモノこそ、それをそれたらしめる所以である。図2/時間に焦点を当てモノを探る。図3/特定の文明にルーツを持たないヒトに共通の編む行為は二進数の表層を現す。思いを込める事とは裏腹に機械的な作業である編む行為は、ツクることの間で対極の姿勢をとる。電線は日本人の原風景である。自然な自然は自然ではなくなった。ものが移り変わった現代、都市のマトリクスはスクリーンのRGBのように行んでいた。都市の幹/自然は丸、人は四角を作る。技術は丸を増やす。円柱の両義性は人が還る安心を与える。
居住者は日々鑄を作ることで、ついには作品との出会いを果たすだろう

【過去の自分の作品】 ※画像や写真等を配置もしくは貼り付けてください

図1 所以の証跡/2017

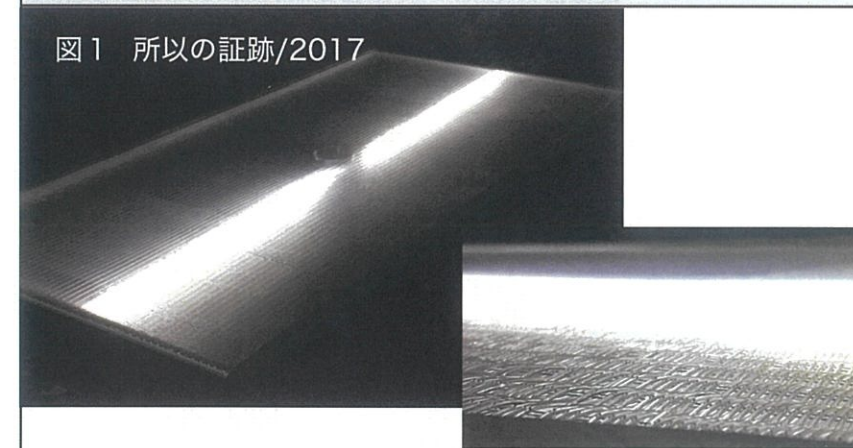


図2



鉄のタペストリ/2018~

図2



都市のマトリクス/2020

図3
(今回使うものと同じ銅撚線)

